

### アクサ生命がリード投資家として出資

## AI警備システムのアジラが資金調達

行動認識AIソリューションによる施設向けAI警備システム「アジラ」を提供する

(株)アジラ(東京都町田市、木村大介代表取締役)は9月12日、シリウスB1st Closingで約5億4000万円の第三者割

当増資による資金調達を実施したことを発表

した。 今回の資金調達では、アクサ生命がリード投資家として出資した。またAI警備システムをはじめとした映像解析技術に関して戦略的な事業拡大の観点

からキャノンマーケティングジャパン、セコム、ニコンとの資本業務提携を行った。アジラは、引き続き2nd

ラは、引き続き2nd Closingを予定しており、資金調達額はさらに増加する見込み。アジラは創業以来、

映像解析技術である行動認識AIを独自開発し、多くの企業の製品開発および課題解決を支援してきた。その経験やノウハウを生かし、2022年に施設向けAI警備システム「アジラ」をリリース。大型商業施設やオフィスビルなど導入先も順調に増加してきており、国内はもとより将来的にはグローバルでの展開も視野に入れている。

今回の資金調達および業務提携により、「アジラ」の拡販体制の増強、行動認識AIの高度化、コーポレートガバナンスの強化を推進していくことで、成長性の高い事業基盤を構築し、「事件事故を未然に防ぐ」という同社のビジョンの実現に向けてより一層まい進するとしている。アクサ生命の執行役員ジャパンアンドアジアCIOのボリス・ム

ティエ氏は、「当社は、アクサグループの戦略と歩調を合わせ、世界の幅広い資産に分散投資を行っており、その一環として国内外のベンチャー企業への投資を直接またはファンドを通じて行っている。今回のアジラの投資に際しては、その高い技術力と成長性、またグローバルに展開できる能力を評価して投資した。加えて「アジラ」は、警備業界の人

手不足や労働環境の改善、そして社会の安心安全に資するものも期待している。アクサ生命は、「事件事故を未然に防ぐ」というアジラのビジョンに賛同し、株主として同社を積極的にサポートする」と話している。アジラの代表取締役木村大介氏は、「私たちは行動認識AIで世界一を目指している。この技術の持つ可能性は果てしなく、今後、

さまざまなシーンでの社会実装が想定されている。今回、世界的企業が資本参加した背景には、「アジラ」のポテンシャルをリアルに体感し、胸を躍らせたからだと考えており、その期待に応えるべく、本技術を社会課題の解決のために社会に実装し、世界一を目指す」とコメントしている。